

「コミュニケーションをどうやってから、互いを知り、成長する」

「豊かな緑に囲まれており、母国にいたような感覚を覚えました。違うところは、山があることくらいですね」と登別市の印象を語ったデンマーク王国のフレディ・スヴェイネ特命全権大使。

現在、2回目となる駐日デンマーク王国大使の任に付いており、いつも日本の「おもてなしの心」に感銘を受けているという大使は、幌別中学校で生徒を含む市民計255人に対して行った講演会の中で、ステージから降壇し、子どもたちの近くまで行って質問に答えるなど、とても気さくに子どもたちと接してくれました。

講演では、デンマーク王国の文化やスポーツに加え、子どもたちを育てるときに大切にしてきた3つのことを教えてくれた大使。



▲生徒に直接質問を投げかけるスヴェイネ大使（幌別中学校）

「1つ目はチームワーク。一人ではなく、力を合わせて何かを成し遂げることはとても大事なことであると考えています。2つ目は、想像力を豊かにすることです。デンマーク王国が世界に誇る玩具として小さなブロックを組み立てることで色々なものをつくり出す『レゴブロック』があり、想像力を養う代表的な玩具といえます。そして、3つ目の一番重要なことは、さまざまなことに興味をもって、わからないことや気になることがあれば質問を投げかけること。その問いに対する答えを得ることで、成長し、自信にもなっていくはずです。」

子どもたちに送る言葉

北海道明日中等教育学校では、高校にあたる後期課程の全生徒に対して「誰かがしてくれるのを待たずに、個々が持っている才能を信じて、自分自身でチャレンジしてほしい」と熱いエールを送った大使。次回は夫人と共に登別市を訪れたいという大使は、「限りない可能性を秘めた子どもたちと出会えたことが幸せでした」と登別市での出会いに温かな笑みを浮かべていました。



KIRARI

フレディ スヴェイネ

駐日デンマーク王国特命全権大使

平成30年4月26日(木)・27日(金)に登別市を訪れたデンマーク王国のフレディ・スヴェイネ特命全権大使。幌別中学校では同校の全校生徒をはじめ、多くの市民に対して講演を行い、また、北海道明日中等教育学校では生徒と英語のみで交流を図りました。

今号では、交流の中で、スヴェイネ大使が子どもたちへ伝えた思いをご紹介します。

自信をもって挑戦 することで未来は 切り開かれる



1957年、デンマーク王国生まれ。60歳。

1982年、デンマーク王国の外務省に入省し、在ブリュッセル・デンマークEU代表部書記官を経て、2005年9月、駐日デンマーク王国大使として日本に駐在。その後、駐インド大使（ブータン・スリランカ・モルディブ兼任）などを歴任し、2015年8月より、2度目となる駐日デンマーク王国大使となる。家族は、妻と4人の子ども。